教育委員会だより

詳しくはこちら

私たちの大切な宝である子どもたちが、夢や希望を持ち、持続可能な社会の創り手となれるよう、教育委員会や各学校では、さまざまな取り組みを行っています。その「今」を紹介します。

未来の大牟田について語り合い、学び合い、つながろう！
～ユネスコスクール・SDGs／ESD交流会～

本市では、平成23年度にすべての市立学校が一斉にユネスコスクールに加盟し、ESD（持続可能な開発のための教育）を推進しています。

7月31日に「夢や希望を描く子どもたちのために、わたしたちにできること！」をテーマに、「ユネスコスクール・SDGs／ESD交流会」を開催しました。

この交流会は、大牟田市内の関係機関が、子どもたちの将来のために連携を深めることを目的として実施しています。

今年も市立学校の教職員だけでなく、幼稚園や高等学校の教職員、ありあけ新世高等学校や三池高等学校、大牟田高等学校の生徒、企業・団体関係者、市職員など約180人が参加しました。

はじめに、福岡教育大学の石丸哲史学長による基調講演が行われました。石丸学長は「夢や希望を描く子どもたちを支えるためには、組織や立場の違いを超えた協働が不可欠です。人づくりはまちづくりであり、それが持続可能な社会の実現につながります」と話しました。

次に、一般社団法人OMUTA BRIDGEの菅原知之さんと高口恵美さんが、高取小学校の関係者とともに、「未来語りのダイアローグ」という手法を用いたグループセッションを行いました。高取小学校の子どもたちが目指している「世界一のあいさつができる学校」になったという未来を設定して話し合い、それぞれ何ができるのかについて考えました。



「未来語りのダイアローグ」
現在の課題が未来には解決しているという設定のもと、それぞれの立場から「どのような取り組みによって課題が解決したのか」について対話する手法

高取小学校の関係者による対話を聞いた後、テーブルごとに集まり、発表を見た気付きや、今後の中で取り入れたいアイデアを付箋に書き出し、交流しました。

さらに、ブースセッションでは9つの企業・団体がそれぞれのブースで業務や製品、取り組みなどを紹介しました。参加者は関心のあるブースを訪れ、今後の連携の可能性や参考となる事例について考えを深めました。



さまざまな立場から参観して気付いたことや感じたことを共有



「ブースセッション」
9つの企業・団体が持続可能な社会づくりに取り組んでいる内容を紹介

最後に、石丸学長は「これからの社会は、持続可能性を追求することなしには成り立ちません。子どもたちには、経験や体験、特に『体感』することを大切にしてほしい」と全体総括を述べました。

子どもたちが夢や希望をもち、持続可能な社会の創り手として成長していけるよう、これからも学校・家庭・地域・企業等が連携しながら、大牟田の未来をともに創っていきたいと思います。



福岡教育大学の
石丸哲史学長による全体総括

平和の尊さ、戦争の悲惨さについて学ぶ

市立小・中・特別支援学校では毎年、夏休みの出校日に、平和学習を行っています。

手鎌小学校の6年生が、福岡県ならびに大牟田市の遺族連合会語り部の皆さんと平和教育担当者による講話を通して、平和について考えました。

甘木中学校では、校長から「8月6日の出校日は、戦争の悲劇を振り返り、平和の大切さを学ぶ日です」との話がありました。また、来年度から通う新しい中学校の校名「桜花（おうか）」には、「一人ひとりの命と個性を尊重し、未来へ輝かせる」という思いが込められていることについても紹介されました。



「桜花（おうか）」という新しい校名に込められた思いについて学ぶ生徒（甘木中）



遺族会の方による戦時中に体験したことの話に聞き入る児童（手鎌小）

「命の紙芝居」を活用した平和学習

宅峰中学校では、市内のボランティア団体であるフォーリナーサポートクラブの皆さんの協力のもと、代表の松井小百合さんが制作した「命の紙芝居」の朗読を通して、戦争の悲惨さについて学びました。この紙芝居は、戦争体験者から聞き取った内容を基に作られたもので、同校では毎年、平和学習に活用されています。

また、この紙芝居をまとめた「命の絵本」200冊が、市立小・中・特別支援学校、市立図書館および7地区公民館に寄贈されました。ぜひ手に取ってご覧ください。

戦争体験を直接聞く機会が少なくなる中、子どもたちが戦争の悲劇と平和の尊さについて学び続けられるよう、今後も取り組みを進めていきます。



校内放送で松井さんたちの紙芝居の朗読を放送（宅峰中）



フォーリナーサポートクラブの皆さんから200冊の「命の絵本」が寄贈

白銀（しらがね）中学校新校舎完成まであと少し

令和7年度に開校した白銀中学校は、現在、旧田隈中学校の校舎を仮校舎として使用しています。令和9年度からは、旧橘中学校跡地に整備中の本校舎へ移転し、新たな環境で学校生活をスタートします。

新しい体育館には、校舎とつながる渡り廊下や駐車場が整備されます。また、校舎の中庭には、旧橘中学校の生徒が、OMUTAジュニアシティメーカーの3期生として活動の中で構想した交流スペース「タマリバ」が整備される予定です。

工事は、完成に向けて着実に進んでおり、生徒たちが新しい学びの場で学校生活を送る日が近づいています。



交流スペース「タマリバ」
旧橘中学校OMUTAジュニアシティメーカーの3期生が中庭をデザイン



新しく建設された体育館は、以前より大きくなり、1階部分は駐輪場になります

■問合せ　教育委員会事務局総務課
教育みらい創造室　☎41-2867